

沙羅の樹文庫だより

NO. 207 (24年2月号)



ふきのとう

のろ さかん

もう めをさましなさい
だれかが よんだので
はい と こたえて
つちのなかから できました
そとは まだ いちめんのゆき
しらかばが つきのひかりに
こおっています
だれでしょう わたしを よんだのは

★24年も予約制で開館★ 第3日曜日と前日の土曜日(6月迄)

2月17日(土)、18日(日)
3月16日(土)、17日(日)
4月20日(土)、21日(日)
5月18日(土)、19日(日)

♥若葉のころのおはなし会♥

ゲスト(町田語り手の会)を迎えて
5月18日(土)午後1:00~大きい人に
19日(日)午前10:30~子供たちに

7月の開館日は第2。13日(土)、14日(日)、15日(月:海の日祝日)
最終返却はこの3日の間に
必ずお願いいたします。

★開館(閉館)記念おはなし会★

7月14日(日)午後:大きい人たちに
15日(月)午前:小さい人たちに

文庫・開館時間:土曜日 13:00~17:00
日曜日 10:00~15:00

子どものための読み聞かせ・おはなし会
文庫のある日曜日 10:30~11:00

おはなし沙羅・おはなし勉強会

文庫のある土曜日 10:30~12:30

沙羅の樹文庫

☎0557-51-3737 (090-6039-3782)

♥沙羅の樹分館ゆるかの里子ども文庫♥

☎0557-54-1910

開室日:水曜日 13:00~15:00

:日曜日 10:00~15:00

文庫あれこれ◆地震に襲われた地域の方々は未だ不安な生活を過ごしています。ロシア対ウクライナ、イスラエル対ガザの争いも続いています。◆立春の翌日、東京に雪が降り交通機関が停滞しました。◆それでも日々は過ぎゆき、春はすぐそこ。大室山山焼きは無事に済んだでしょうか。10日伊豆高原baseへ読み聞かせに行ったら、至る所河津桜、オオカンザクラが満開。(左は文庫の河津桜) ◆文庫もあと半年です。つついと同じように新しい本を入れてしまいます。今年は会費はいただきませんが、どうぞ、文庫の本を最後まで可愛がって、愉しんでくださいますよう。



(西村)

徒然なるままに……

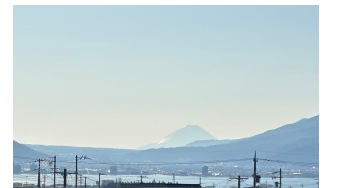
(さ・ら)

☺我ら夫婦のいくつかある記念日の一つ(2/2)を挟んで、山梨、信州の鄙びた温泉に行ってきた。☺まずは塩山・裂石温泉雲峰荘の一枚岩の露天風呂。



☺翌日は、信州・塩尻の田川浦温泉(表紙写真:一軒宿から、みどり湖の先に穂高を臨む)。☺3日目は奥蓼科温泉郷・渋御殿湯。温(ぬる)湯で、熱いお風呂好きの私は、雰囲気だけ

味わう。☺そして、田川浦温泉、朝出立の際、積雪で車エンジンかからずはまあ序の口。渋御殿湯では高度1800メートルからの下り山道で、ブレーキ効かず。いつも平静な連れ合いも、ヒヤッと(スノータイヤは勿論つけず)。その間対向車なく、神に感謝。☺50年前、家族でアメリカ縦断旅行中、ナッシュヴィル手前の雪道で車が180度回転したこと 諏訪湖から富士を見るを思い出した。ヒヤヒヤ人生も、まもなく60年♥



諏訪湖から富士を見る



図書館がくれた出会い

尾家 順子

こんにちは。私は和歌山県のみなべ町で、全校児童13名という山あいの小学校の図書館に週1回勤務して4年目の会計年度司書です。

1ターン移住してから定年まで、町立図書館で主に児童サービスを担当しました。



その時、東京子ども図書館のストーリーテリングの講座を受けて、恐る恐る語って見たら、中年新米のヘタな語りを子どもたちが真剣に聴いてくれたのに気をよくし、特に昔話の磁力に驚いて、秘密が知りたいと小澤俊夫先生の昔ばなし大学を受講。

その後、受講生で再話研究会「あのない」を発足させ、今は6人で主に和歌山のみなべ・田辺以南に伝わる話や、南方熊楠さんが記録した話を再話して語っています。身近な地名などが出ると子どもたちはやはり親近感を抱くようです。勉強会はズームで行い、語りついでもらえるように再話集が出せないかとメンバーで模索中です。

また、田辺市と違ってみなべ町には語りのグループがなかったので、4年前に有志3人で「おんごむかし」（昔むかしの意味）という

会を作り、『レクチャー・ブックス』（東京子ども図書館刊）から学びを始めました。その途端にコロナ……。昨春やっと町立図書館で、「松岡享子さん ありがとう！」として先生の作品だけでおはなし会の船出ができ、今年の春休みは「昔ばなしで ちょこっと 世界めぐり」の予定です。3人なので文字通り「ちょこっと」ですが、この勉強会も年相応のペースで続けています。206号に森尾宏子さんがお書きのように、どちらも仲間がいてこそです。

寄り道の末、人生半ばで児童サービスの仕事に出会えたことで得た喜びは大きすぎて、うまく言葉に出来ません。今は図書館業務の一環で毎週1コマ、1, 2年生計3人と絵本やおはなしを楽しんでいます。限られた能力と時間で出来ることはわずかですが、どの子どもも「本が好き！」になって卒業してくれますようにと願って仕事に励んでいます。

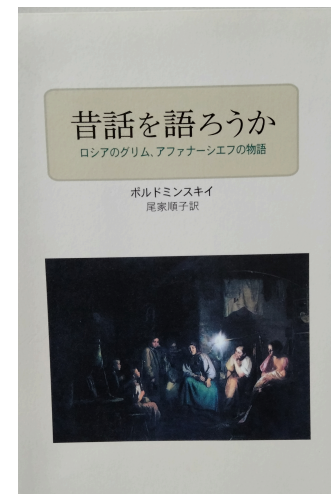


★全校生徒13名なのに何と立派な学校と思ったら、往時は120人もいたとか。

きっと、図書室も広々！
← →

昔話といえば、ロシアのグリムと呼ばれるアフナーシエフの人生が知りたくて訳したものが松岡先生の「ランプシェード」のおかげで出版（『昔話を語ろうか』群像社刊）されたのをきっかけに、著者ポルドミンスキさんの本を何冊か訳す機会にも恵まれました。600話を超える昔話を集め、『子どものロシア昔話集』を最後に45歳で没したアフナーシエフの不遇続きの人生は、深い敬意を抱かせるものでした。

最後に、西村敦子さんとの出会いも図書館からの贈りものです。ありがとう、図書館！



24.2月に入る子どもの本

絵本

- 『やっぱりおおかみ』(ささきまさく・え
福音館書店 1973) ID14018
『おこだてませんように』(くすのきしげのり作
石井聖岳絵 小学館 2008) ID14019
『ぼくはなきました』(くすのきしげのり作
石井聖岳絵 東洋館出版社 2019) ID14020
『しゃぼんだま』(小林実文 林明子絵 福音
館書店 1984) ID14021
『わたしは地下鉄です』(キム・ヒョウン文・
絵 万木森玲訳 岩崎書店 2023) ID14022

読みもの

- 『魔女とふたりのケイト』(K・M・ブリック
ス作 石井美樹子訳 岩波書店 1987)
ID14023
『地に消える少年鼓手』(ウィリアム・メイン
作 林克己訳 岩波書店) ID14024
『ブリジングアメンの魔法の宝石』(アラン・ガ
ーナー作 芦川長三郎訳 評論社 1969)
ID14025
『ふくろう模様の皿』(アラン・ガーナー作
神宮輝夫訳 評論社 1972) ID14026
『空と星と風の歌』(小手鞠るい作 童心社
2023) ID14027
『モノクロの街の夜明けに』(ルータ・セペテ
ィス作 野沢佳織訳 岩波書店 2023)
ID14028

昔話

- 『マディバ・マジック-ネルソン・マンデラが
選んだ子どもたちのためのアフリカ民話』(ネ
ルソン・マンデラ編 和爾桃子訳 平凡社)
ID14029

ノンフィクション

- 『小惑星・隕石-46億年の石』(三品隆司構
成・文 吉川真・藤井旭監修 岩崎書店
2023) ID14030

24.2月に入る大人の本

フィクション

- 『東京都同情塔』(九段理江著 新潮社 2024)
ID19196
『ともぐい』(河崎秋子著 新潮社 2024)
ID19197
『八月の御所グラウンド』(万城目学著 文藝
春秋 2023) ID19198
『松籟邸の隣人 青春の章』(宮本昌孝著
PHP 研究所 2024) ID19199
『それは誠』(乗代雄介著 文藝春秋 2023)
ID19200
『ジョ二黒』(永井みみ著 集英社 2023)
ID19201
『あけくれの少女』(佐川光晴著 集英社
2023) ID19202
『月ぞ流るる』(澤田瞳子著 文藝春秋 2023)
ID19203
『遊びをせんとや-古田織部断簡記』(羽鳥好
之著 早川書房 2023) ID19215
『櫻がけの二人』(嶋津輝著 文藝春秋 2023)
ID19204

エッセイほか

- 『月の雫』(中村稔著 青土社 2024)
ID19205
『森鷗外の『沙羅の木』を読む日』(岡井隆著
幻戯書房 2016) ID19206

- 『病んだ言葉 癒す言葉 生きる言葉』(阿部
公彦著 青土社 2021) ID19207

- 『戦死者たちの源平合戦-生への執着、死者へ
の祈り』(田辺旬著 吉川弘文館 2023)
ID19208

- 『北支宣撫官-日中戦争の残響』(太田出著
えにし書房 2023) ID19209

- 『いつも機嫌がいい人の小さな習慣』(有川真
由美著 毎日出版) ID19214

- 『わたしが誰かわからない-ヤングケアラーを
探す旅』(中村佑子著 医学書院 2023)
ID19210

- 『小山さんノート』(小山さんノートワークシ
ョップ エトセトラブックス 2023)
ID19213

- 『日本精神史 近代篇上』(長谷川宏著 講談
社) ID19211

- 『日本精神史 近代篇下』 ID19212

文庫

- 『西南役伝説』(石牟礼道子著 講談社文芸文
庫 2021) ID19216

- 『始祖鳥記』(飯嶋和一著 小学館文庫 2002)
ID19217

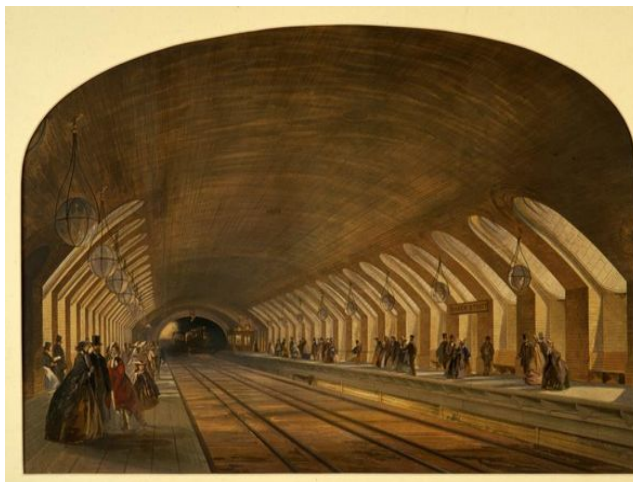
- 『おくり絵師』(森明日香著 ハルキ文庫
2023) ID19218

- 『蛭と鶯-鳴神黒衣後見録』(佐倉ユミ著 祥
伝社文庫 2023) ID19219

- 『232番目の少女-イヴ&ローク56』(J・
D・ロブ著 小林浩子訳 ハーパーコリン
ズ・ジャパン 2023) ID19220

シャーロック・ホームズを推理する (14) ホームズの舞台—ロンドン編 小林 由美

シャーロック・ホームズが住んでいるのはロンドンのベイカー街221B という住所です。ここはハドソンさんという大家さんの所有する縦割りの住宅で、フロアシェアするワトソンと共に下宿人として暮らしています(注)。ベイカー街はロンドン中心部の北西に位置しますが、当時すでに地下鉄が通っており、それに乗れば市内のどの地域へもすぐに駆け付けられます。現在のタクシーのように往来する馬車もホームズの重要な交通手段でした。



(当時のベイカー街駅)

事件現場の多くはロンドンですが、時に郊外へ汽車に乗って出かけることもあります。

物語に描かれている地名は、センシティブな事件現場などを除いてはほぼ実在します。ベイカー街も実在の地名で、地下鉄の駅名としても知られています。番地は、当時は実在していませんでしたが、その後地番整理があつて実在するようになり、その番地あてに事件の依頼状が届いたりするようになったそうです。

イギリスでは「A to Z」という索引付きの地図が販売されています。これはシャーロキアの必須道具です。物語を読みながら、ホームズが動き回る道筋を地図上でたどり、一緒に推理するのは。地図の上だけでは飽き足らず、実際にロンドンまで行って歩いてみるというヒマ人も多くおりまして、私もそのひとりだったわけです。

「ブルース・パーティントン設計書」(『シャーロック・ホームズ最後の挨拶』所収)は、地下鉄(当時は蒸気機関車)の屋根の上に乗せられた死体が運ばれて、ある駅の手前で落ちていたのが発見されるという事件です。そこで落ちた理由は、その場所にポイントがあつて列車が揺れたためでした。また死体が置かれた場所は、住宅の窓の下で列車が信号待ちで止まる所でした。ロンドンは今も19世紀に造られた線路に地下鉄が走っています。私はこの地下鉄にどうしても乗りたくてロンドンに行き、ポイントで揺れてはキャッホーと

叫び、信号で止まるとは「ここだっ!」と窓の外を覗いて興奮したのであります。

今はグーグルマップもあり、ロンドンまで行なくてもパソコン画面で散策出来ます。地名の検索も簡単になりました。ホームズは時々現地に向かず、ベイカー街の部屋で情報を集め、パイプをくゆらせながら推理することがあるのですが、そのような探偵のあり方はArmchair Detective(安楽椅子探偵)と呼び習わされています。みなさんもホームズを読みながら地図を開いて、居ながらにしてホームズと一緒にロンドンを歩く「アームチェア・トラベル」をしてみたいはいかがでしょうか。

ホームズ縁りの地を案内する
書籍の数々



(注) ワトソンは途中で結婚して部屋を出ますが、「悲しいこと」があつてまた戻ってきます。

たしか、地下鉄ベイカー街駅を地上に出たところに、パイプを燻らせているホームズの石像があつたと記憶しています。西村